

6月27日ジャグラ岡本会長と田中専務に、主催者として日本自費出版文化賞の協賛企業を増やして欲しいという依頼に伺ったとき、「文化賞の主催はジャグラでなくても良い」「JSNが主催の方がいいのでは」という主催団体ジャグラの岡本会長の意見もあり、その発言を受けて役員で検討が始まりました。岡本会長の真意は、一印刷業団体の主催でない方が、全印工連のような他の同業団体からの支援も受けやすいのではないかと、すでに文化賞は社会的存在になっているので、もっと幅広く関連団体が支えるべきで、そこを考えるとジャグラが前面に出ない方がいいと理解しています。今後は、今一度ジャグラの考えや、変更案がある場合の支援内容を確認して役員会で方向性を考えていきます。現状と変わるような案が出た場合は、理事案を来年5月開催の総会に提出して結論を出す予定です。

4. 自費出版事情… ～会員便り～No.68

紙と電子のハイブリッドを視野に

(株) ミューズ・コーポレーション 喜怒哀楽書房
木戸 敦子

■創業2003年 8名の女性スタッフ■

新潟の飛行場の近くで「抱きしめたい本づくり」を社是として、句集、歌集、自分史、エッセイ集といった自費出版の本のお手伝いしています。

10月10日で創業20周年。手がけた本は2000点を越えます。

創業1949年の(株)木戸製本所とフォトギフトの開発を手掛ける(株)GiHおよび当社の3社を「Book entertainment group」と称し、社長は木戸敏雄が兼務、当社は8名の妙齡な(!?)女性スタッフが和気あいあいと働いています。

■創業のきっかけは母の死■

2001年母が亡くなり、追悼集『忘れな草』という本を作りました、それが当社の本第一号です。今見れば、稚拙な本ですがこの本を父が喜び、涙しながら抱きしめて寝ていた、とは後で耳にしたこと。

その時の想いから「抱きしめたい本づくり」が当社のミッションとなりました。

■創業20周年を機に■

以来20年、お客様の想いに寄り添い一冊一冊形にしてきました。本年より自費出版ネットワーク様のご紹介で電子書籍化を進め、現在10点を販売中。

また、事業再構築補助金を得て「俳句なび(仮称)」を開発。紙と電子のハイブリッドを視野に「本づくりを楽しむ」を合言葉に進んでいきます。

また自社の足跡とこれからをまとめた『STORY of our MUSES』を書籍化しました。読んでみたい! という方はお気軽にお問い合わせください。

HP <https://e-muse.jp/>
メール odp@eseihon.com

☆ 知っとこ高知 その 4

紙のオハナシ

「土佐和紙」というのをご存じですか？

美濃(岐阜県)や越前(福井県)に比べると有名ではないかもしれませんが、高知の「土佐和

紙」も日本三大和紙の一つです。
水質日本一の「仁淀川（によどがわ）」の恵みを受け、いの町や土佐市周辺で製紙技術が発達し、今も製紙会社が多くあります。
土佐和紙の特徴は、薄くて破れにくいという丈夫さ。いの町で製造される「土佐典具帖紙（とさてんぐじょうし）」は、厚さがわずか0.03～0.05mmと和紙の中でも非常に薄く、丈夫さもかね備えることから別名「カゲロウの羽」と呼ばれ、博物館や寺社、海外でも古文書の修復などに用いられ高い評価を得ています。
そしてその品質の良さから、土佐典具帖紙は1973年（昭和48年）に国の無形文化財に指定されました。
この土佐和紙と海外のつながりのおかげで、弊社でも今ものすごい企画が進行中なのですが、そのお話はまた今度…。

高知には大企業といわれる会社はありませんが、ユニークな会社はいくつかあります。
その一つがニッポン高度紙工業（株）という紙にまつわる会社です。
エレクトロニクス機器に不可欠な存在であるのが電解コンデンサと呼ばれる電子部品で、そのコンデンサの部品の一つに「セパレータ（絶縁体）」というのがあります。
電池の内部で正極と負極を分離するために用いられる樹脂製の微多孔膜であるこの「セパレータ」の材料が、実は土佐和紙を加工して耐熱性と耐水性を高めた紙なのです。
この耐熱性と耐水性を高めた「高度紙」を開発したニッポン高度紙工業（株）はグローバルニッチ企業として世界のトップシェアを占めています。

最新のどのIT機器の部品にも紙が不可欠というのがなんだかおもしろいですね。

リーブル出版（株式会社リーブル）
代表取締役 坂本 圭一朗

★あとがき

会員便りに寄稿してくださる会員さんを探すのに、よく自費出版ネットワークのサイトで検索をします。

<https://www.jsjapan.net/users?code=1>

今回は北の方から探していて「新潟県」に着目、そこで喜怒哀楽書房さんにご登場いただきました。

良いお話が聞けました。

この検索サイト、便利ですので皆さんも活用してみてください。

そして紙のオハナシ。リーブル出版さんの企画も聞きたいですね。高知での楽しみがまた増えました。

さて、文化賞最終選考会が迫ってきました。

審査員の皆さま、ありがとうございます。

今年はどうな本が選ばれるのでしょうか？

こちら楽しみです！

最後までお読みくださりありがとうございました。

お気づきの点、掲載情報、はたまた私への激励のお言葉がございましたら
yumi@maruwanet.co.jp まで、お願いいたします。

*:**:

◆日本自費出版ネットワーク事務局

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル7階

電話：03-5623-5411

FAX：03-5623-5473

<http://www.jsjapan.net/>

